

## 研究機関名：旭川医科大学

承認番号	21181
課題名	褐色細胞腫や傍神経節腫に伴う高カテコラミン血症により褐色脂肪の FDG 集積増加を認めた症例に関する検討
研究期間	西暦 2022 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日
研究の対象	褐色細胞腫又は傍神経節腫と診断され、治療前の状態で 2008 年 1 月～2022 年 2 月に当院で FDG-PET/CT 検査を受けられた方、及び FDG-PET 検査を受けて脂肪組織に集積があると言われた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：FDG-PET 画像、病歴、血液検査結果、治療歴等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（）
研究の意義、目的	FDG-PET (Fluorodeoxyglucose positron emission tomography) 検査では悪性腫瘍があるとその部位に集積増加を認めます(光ります)。その他に正常な所見として大脳(糖の代謝)や尿路(薬の排泄経路)では生理的集積といって、正常でも光る部位があります。褐色脂肪はそのような生理的集積を認める部位の一つ(脂肪を燃焼するとされます)で、すべての人に認める所見ではありませんが、首周りや背骨の周囲等に認められることがあります。通常は光っても正常所見と判断しますが、褐色細胞腫や傍神経節腫の患者さんではこの褐色脂肪が非常に強く光る方が多い傾向が認められました。今回の研究では生理的に褐色脂肪が光っていた患者さんと褐色細胞腫や傍神経節腫によって二次的に褐色脂肪が光っていた患者さんを数値として測定し、統計学的に比較して、差があるかを調査します。この研究によって今まで FDG-PET において正常とされていた所見が必ずしも正常と断定できるわけではないという知見を発表できる可能性があります。また、褐色脂肪が普段よりも強く光っている場合は、褐色細胞腫や傍神経節腫を疑うきっかけになる所見として役立つ可能性があります。
研究の方法	当院の画像診断を行うサーバー内から FDG-PET を施行された対象患者さんの中で褐色脂肪に集積を認めた(光っていた)画像を集めます。その集積の数値を測定し、記録します。褐色細胞腫・傍神経節腫の患者さんの群と正常群を比較して、統計学的にその数値に差があるかを検討します。また、光った部位の数や、その数値がどれくらい高ければ異常と言えそうか等についても検討を行います。
その他	特にありません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究への利用を拒否する場合の連絡先：

電話番号：0166-68-2572

住所：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

研究責任者：

旭川医科大学 放射線医学講座 医員 野村健太